

「離してっ！ここから出しなさいっ……！」
（あの黒い怪人…私を捕らえてどうする気なの……？
それにこの森は…今は早くここから抜け出さないとっ……！）

グワッ

ホッ



「こ…これは…？」
（何…？禍々しい力が私に集まってる？）

いんちき…



「あぐっ…! まさか私の身体に入り込もうとっ!?
んんっ…そんなこと…させ…ない…っ!」

いんちか…





「はあ…はあ…凌げたの？
へ…!?エクスデバイスが…ど…どうなってるの!？」



「そんなっ…故障っ!?まさか今の力のせいで…?
駄目よ…持ちこたえてっ…!」



「そんな…またあの力が!?
駄目よ…今の状態じゃ…!」

いふか…





あー

ドン...

!!

ドン...



「はあ…はあ…変身が解け…てない？
スーツだけ消えて…どうなってるの…？」

「…？お臍に何が埋め込まれてる…？」





「この紋章は一体…!」



わっ

「ひゃあっ♡…身体が熱く…?
何なの…これ…っ…!？」



キョー
キョー

トロッ



アッ...

ズブ...

ウハ...

「あっ♡んっ♡やめっ！
このっ…放しなさいっ！」

アッパっ♡

ズッ…

イッパっ…

「っ…っ嘘っ…」

「呑み込まれちゃうっ…やめてえ!」

ドガッ



ア...







アピ!



フゥ...

フゥ...

オオ!!



「何が…起きたの…？
か…身体が包まれてる…スーツ？」



「なっ!?…エクステリアのスーツじゃないわ…。
これは一体…薄い膜に包まれてるような…」

「んっ♡あれ…?
おっぱい重い…っ…大きくなってる?」

んん



「ひゃうっ♡触手が絡みついてっ!?
あうっ…んっ♡身体…凄く敏感になってる…♡」

「そと駄目っ…んっ♡
乳首にアソコ弄らないでっ…!」



「ひゃいひゃい♡
駄目っ…挿入ってきちゃっ…!?
んんん♡♡♡」

「んっ!? 熱いっ…♡
私の膣内とおっぱいに触手から何か注がれてるっ…!?」



「ひゃうっ♡触手に乳首穿られてるっ♡
私のおっぱい…おかしくされちゃってる…っ!」

「ひっ…!これ…嘘でしょ…?
ぶっっ母乳が出るの…!」

ガッ♡

ザー



ひん

ブル



ふ...ふふ...

ぐも...♡





はーい

ゲッ!

ゲッ!

「はーっ♡…はーっ♡…そんな…っ…
子宮に触手の精液注がれてっ…」

「それに…おっぱいと子宮の中に何か…
得体のしれないのが身体に入ってきたような…？」

「ぶっほっ」

「はっはっ…」



「どうして…身体から力が湧き上がってくる？
まさかそんな…違うつ…私は触手で感じてなんかっ…!?」

「へ…意識が…遠…
…やっ…そうちゃ…」

トカッ!



「.....
私は…インヴェルズの先鋭…」



「ちがつ…私は…」

エクス…ティ…いいえ…インヴェルズ…」

「インヴェルズの…先鋭…」

私はインヴェルズ…インヴェルズ…」

トッ…

トッ…!



「私…インヴェルズ…の先鋭…
人間…敵…」



「ブライトフェザー…エクспанション…」



「私は…インヴェルズ・エクステリア…」



「侵略…開始…」

1/4!

